

「主体的な姿を引き出す授業作りシート」の開発 ～児童・生徒の特性タイプに注目して～（3年間の研究のまとめ）

1年目 知る

目的

①授業観察の視点を統一する。
②主体的な姿とそれを引き出していた要因を考える。

成果① 授業観察シートの作成


授業観察シート

成果② 主体的な姿を引き出していた3つの要因の整理


教材・教具


教師の対応


環境

2年目 整える

目的

①グループでの主体的な姿を定義する。
②主体的な姿を引き出すために教師ができることを考える。

成果① グループで考えた主体的な姿は

「児童・生徒が自分で考えて、何かしら発信した姿」



成果② 主体的な姿を引き出すためには

教師は児童・生徒が「何をするのか」ではなく「何を考えているのか」に寄り添う

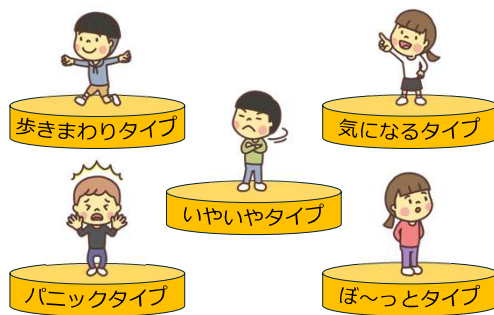


3年目 深める

目的

①主体的な姿を見出すのが難しい児童・生徒への支援を考える。
②誰が見てもわかる支援アイデアを提示する。

成果① 児童・生徒を5つのタイプに分類



成果② 教材・教具/教師の対応/環境に注目してタイプ別に支援を考えてまとめた




主体的な姿を引き出す授業づくりシート



まとめ

児童・生徒の特性や行動、考えをありのままに把握して受け入れる。
児童・生徒、一人ひとりが「できること」を考え、授業作りや関わり方を変えていく。

実践① 事前授業での様子

教師が目を離すと手が止まってしまう、一人で作業し続けることが難しかった。（手が止まる一因には「自信のなさ」もあるのではないかと仮説を立てた）

教材・教具の工夫

すべきことが分かるように、写真付きの手順表を用意する。調味料は、終わりが明確な個包装タイプを使用する。

環境の工夫

使う道具、使い終わった道具の場所を明確にする。頼りになる友達が近くにいるような座席配置にする。

教師の対応の工夫

手が止まっていたら、手順表に指をさしたり「次は？」と声を掛けたりして、すべきことに気がついてもらえるようにする。

引き出した主体的な姿

教師から手順表を見るように促されると、進んで手を動かして作業に取り組むことができた。グループの友達が取り組む様子を見て、行動を起こそうとすることができた。

タイプ


ぼーっとタイプ



実践② 事前授業での様子

動画や教師の手に視線を向けられるが、自ら「やりたい」という意思表示はほとんど見られない。教師が呼名するとすんなりと前に出て活動できる。そばにいる教師の模倣をしり言葉掛けを受けたりすることで、実際に行動に移すことが多い。

教材・教具の工夫

的当ての的にキャラクターを用いて、活動への意欲を高める。水鉄砲が当たったことが分かりやすいように、トイレットペーパーをつなぎの紐として使用する。

環境の工夫

待機するベンチの目の前で活動を見せる。先に友達が数人取り組む様子を見せ、見通しや期待感をもてるように促す。

教師の対応の工夫

教師がそばで「合ってるよ。」「やっていいよ。」と言葉を掛けたり目を合わせて頷いたりして、肯定的な反応をする。

引き出した主体的な姿

教師の「やりたい人？」という全体指示に反応してベンチから立ち上がり、活動への意思を示した。また、自分でキャラクターを選ぶ様子が見られた。

タイプ


ぼーっとタイプ



実践③ 事前授業での様子

何事に対しても興味が少なく授業に対してはその場にいるだけという様子だった。

教材・教具の工夫

モニターを使い、視覚的に理解を促す。

環境の工夫

最前列に座席を配置し集中しやすい環境を整えた。

教師の対応の工夫

STが近くに座り適宜言葉掛けや指差しを行い、今何をしているかに意識を向けるように促す。

引き出した主体的な姿

教師の支援を受け入れ、活動に対し今何をしているか意識が向くようになった。

タイプ


ぼーっとタイプ



実践④ 事前授業での様子

最初は新しい活動に参加せず、じっと見守っていた。「やりたくない」という発言があった。

教材・教具の工夫

これまで学習したことがある課題から応用した。

環境の工夫

自分の作業に集中することができるように、壁側の座席配置とした。

教師の対応の工夫

本人の気持ちを尊重しながら、教師が手助けを出すことなく、手本の明示し本人の活動を待つ。

引き出した主体的な姿

自分の中でアドバイスを受け入れ、取り組んだり、自分なりの方法を工夫しながら活動を行うことができるようになった。

タイプ


いやいやタイプ

